



こかげのにちじょう⑨

～他の人に迷惑をかける～

鳴海 明敏

8月某日

<エピソード>

高校1年生のしのぶさんが、女子トイレ個室のペーパーホルダーを壁から叩き落としてしまいました。そのことについての職員とのやりとりです。

職員:どうやって壊したの?

しの:イライラして壊した。ドンドンして(手で叩く真似)5回くらいやったら外れた。

風呂に入るか入らないかで、悩んでた。

しのぶさんは、自分が壊したことをすんなりと認めています。そこで、職員は次の段取りとして、謝罪をさせる方向に話を持っていこうとします。

職員:トイレトペーパーホルダーを破壊したことについて、どう思ってるの?

しの:悪いと思っている。

職員:何が?

しの:壊したこと。

職員:何で破壊すると悪い?

しの:修理しないとダメ。修理代、お金かかる。

しのぶさんは、自分が破壊したことを認めていて、自分がしたことについては「悪いことをした」という意識があり、修理にお金がかかるという認識もあり、その点については謝る必要があると思っているようです。入所した当時のしのぶさんは、なかなか自分がやっちゃったことを認めることができませんでした。だから、私は、自分が壊したことをすんなり認めているしのぶさんに成長を感じるのですが、職員の方は、「何について、どう謝罪をする

のか」ということに関心があるようです。

職員:それだけ?あとは?

しの:わかんない。

職員:いつもそこにあるものが無って、困らない? 不便じゃない?

しの:わかんない…不便ってわかんない。それを不便って言うの? なくても普通に使えるじゃん。家にだってトイレトーパー入れるのないし。無くても使えるよ。

職員:他の人に迷惑かかっているとは思わないの?

しの:かかっているかなあ～って感じ。ウチはべつに…使えるから…。壊したことは、悪いと思ってる。でも、ウチはべつに困ってない。

しのぶさんは、特別支援学校高等部の一年生です。学園の設備を壊してしまったことは認めており、そのことについては謝罪する意志もあるようです。

しかし、職員としては、皆が使うものを壊した、そのことで他の人に迷惑をかけた、だから、「他の人に迷惑をかけたこと」について謝罪しなければならないと思っっているのですが、しのぶさんには「他の人に迷惑かけた」という意識が全くありません。

一方、職員の方は、しのぶさんが「他の人に迷惑をかけた」ということを理解できていない、ということに気づいていないのです。

しのぶさんは、特別支援学校に通っているので軽度の知的発達遅れがあります。それに加えて少し発達障害の傾向もあるようです。「心の理論」を持ち出すまでもないのですが、「他の人のが、どう思っているのか」ということを理解するまで、こころが育っていないようです。

職員の方は、高校生にもなって、「人に迷惑を掛けたことを謝れないのはダメ」という意識があるのでしょうか。

職員にしのぶさんとのすれ違いに気づいて貰い、そのうえで、「他の人に迷惑をかける」ということについて、どうしたらしのぶさんに解ってもらえるか、一緒に工夫してみようと思えます。

(了)